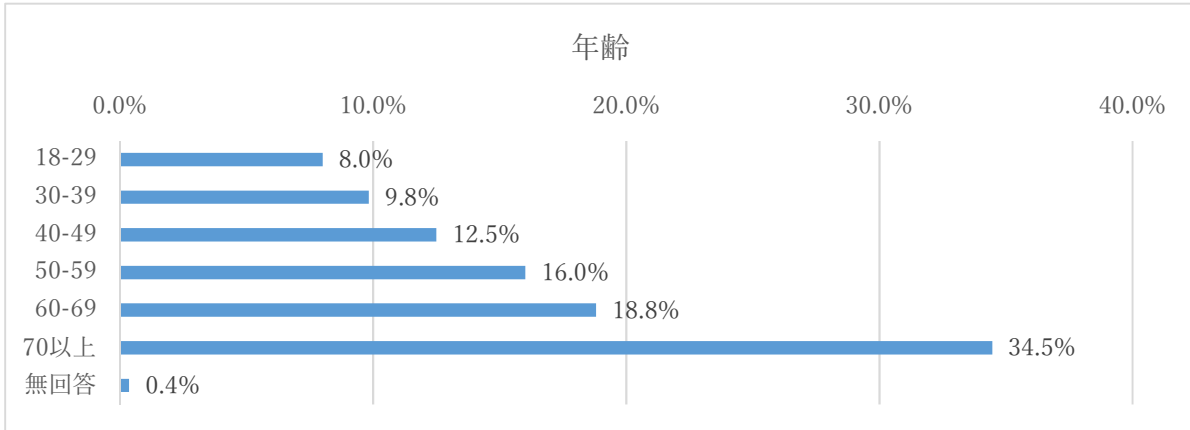


1 調査概要

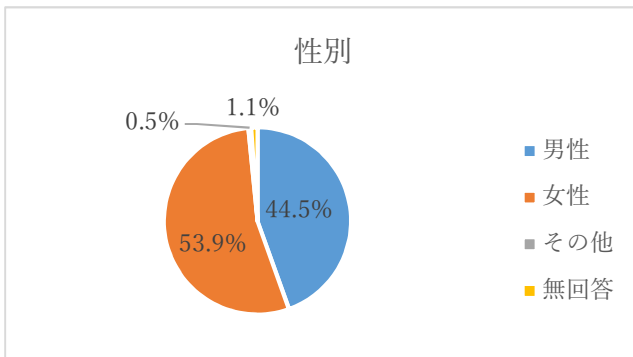
調査方法	郵送で発送、郵送で回収
配布総数	2,000人（住民基本台帳から18歳以上の無作為抽出）
回収数	824人
回収率	41.2%
実施時期	令和3年6月

2 回答者の属性

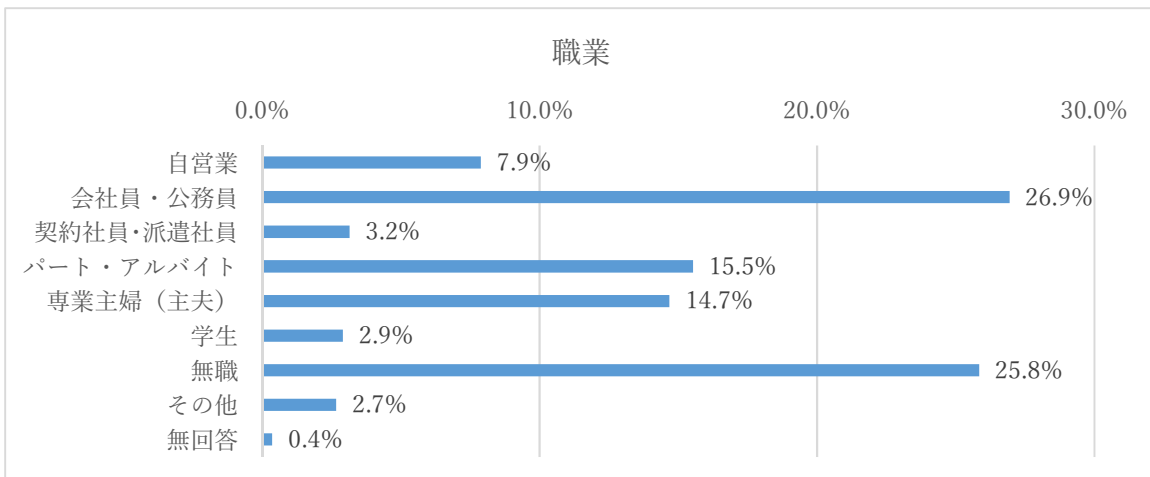
(1) 年齢



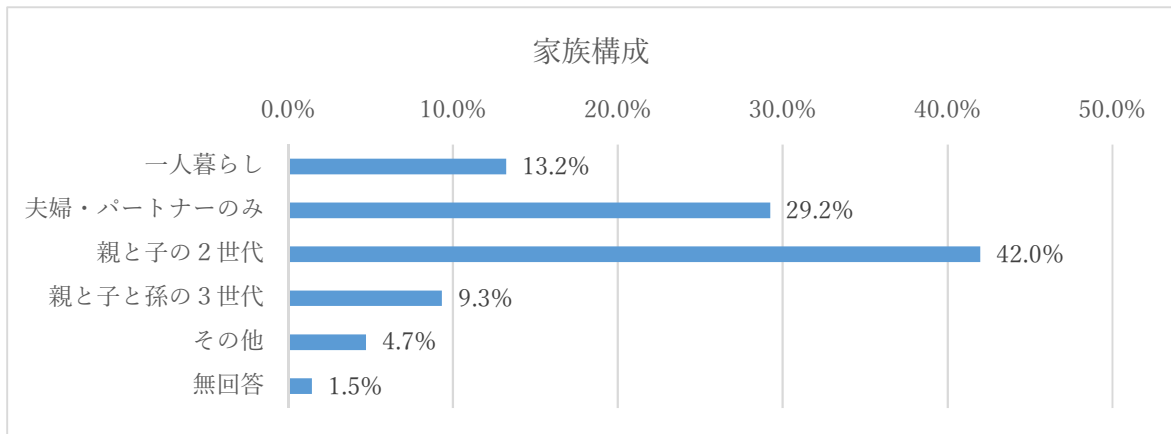
(2) 性別



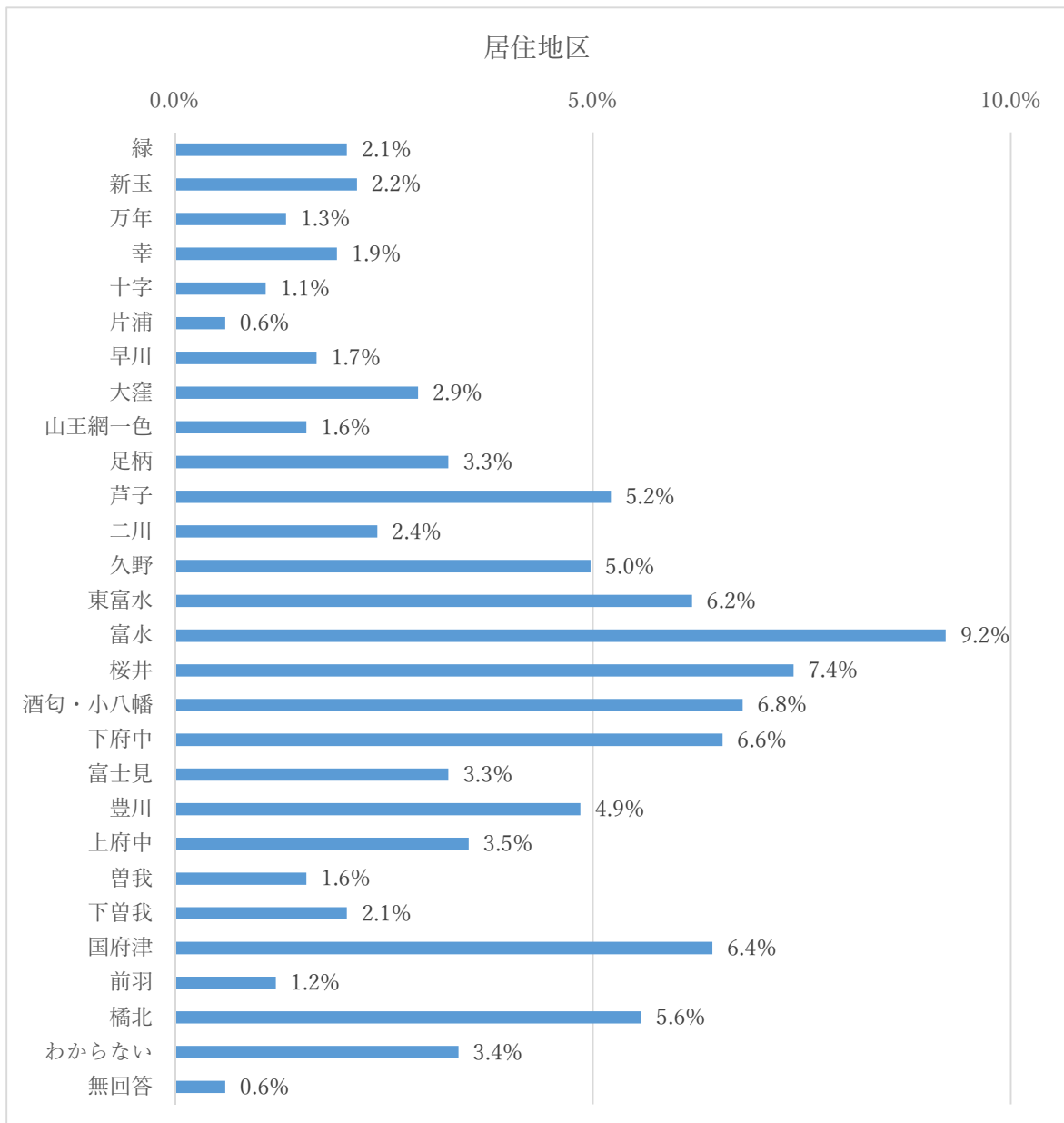
(3) 職業



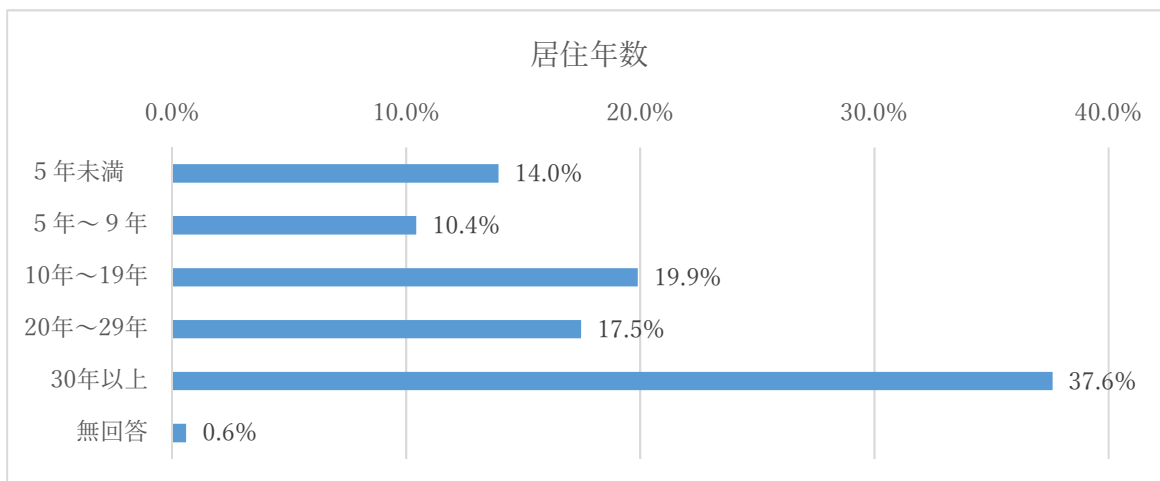
(4) 家族構成



(5) 居住地区

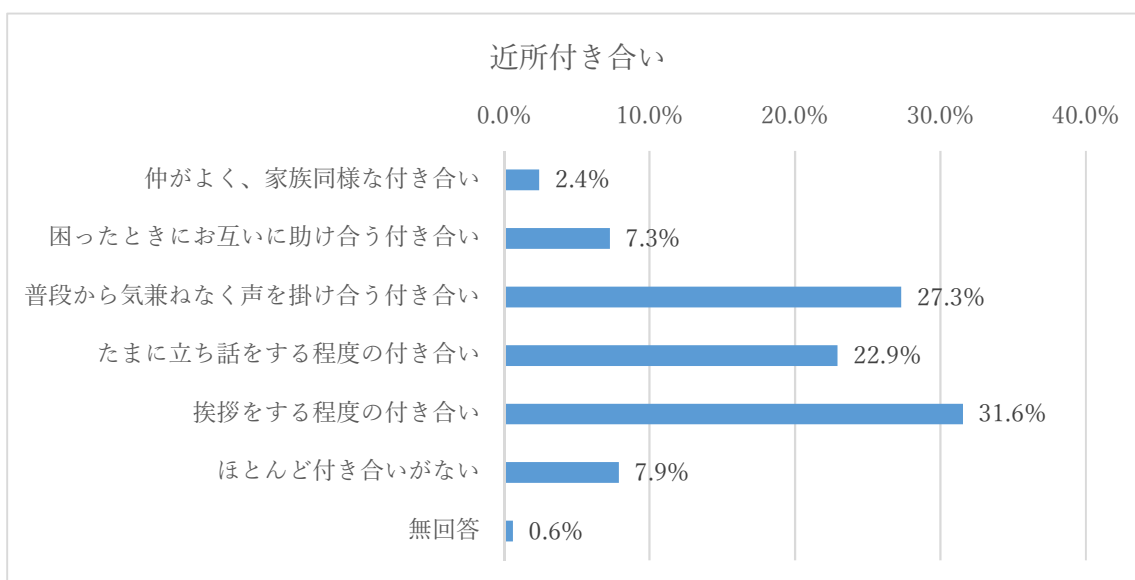


(6) 居住年数

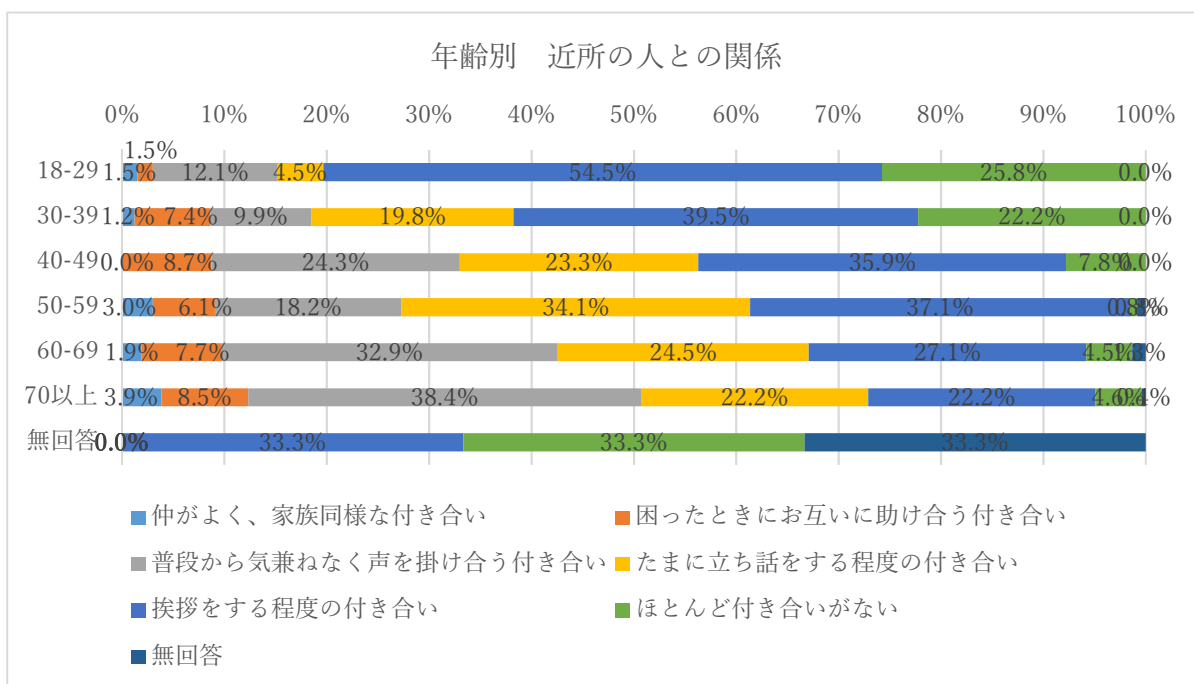


3 地域での交流・活動

(1) あなたはどのような近所付き合いをされていますか。(いずれか1つに○)

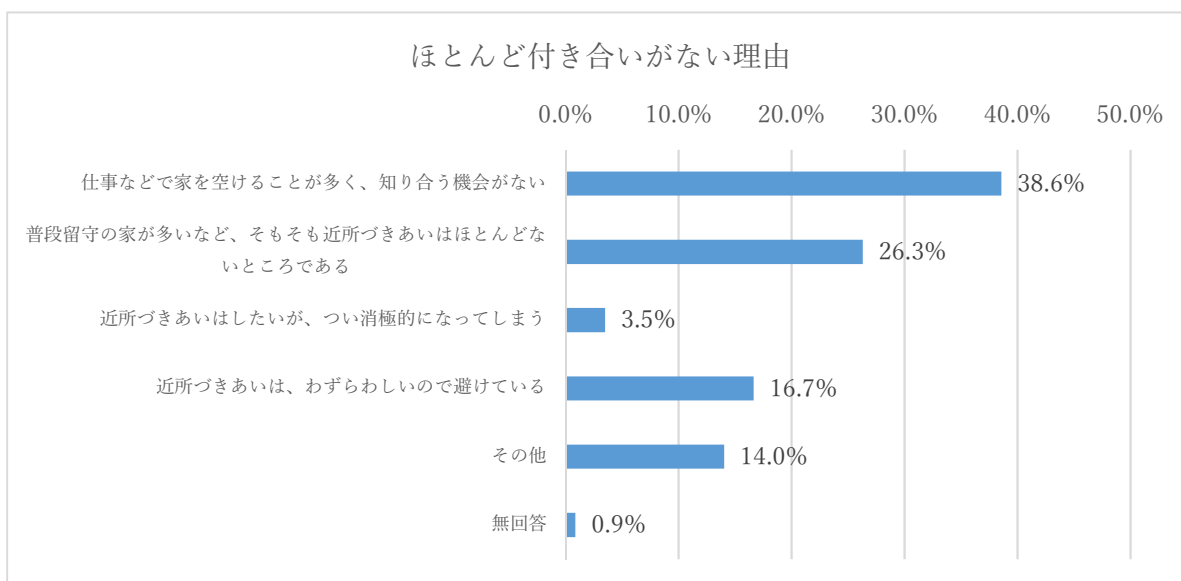


- 「挨拶をする程度の付き合い」が31.6%、「普段から気兼ねなく声を掛け合う」が27.3%、「たまに立ち話をする程度」が22.9%となっている。「たまに立ち話をする程度」までの約60%の市民が近所の人とコミュニケーションを図っており、さらに、約90%の市民は近所の人と顔見知りで、何らかの形で近隣住民とかかわりを持っている。その一方、「ほとんど付き合いがない」が7.9%となっている。

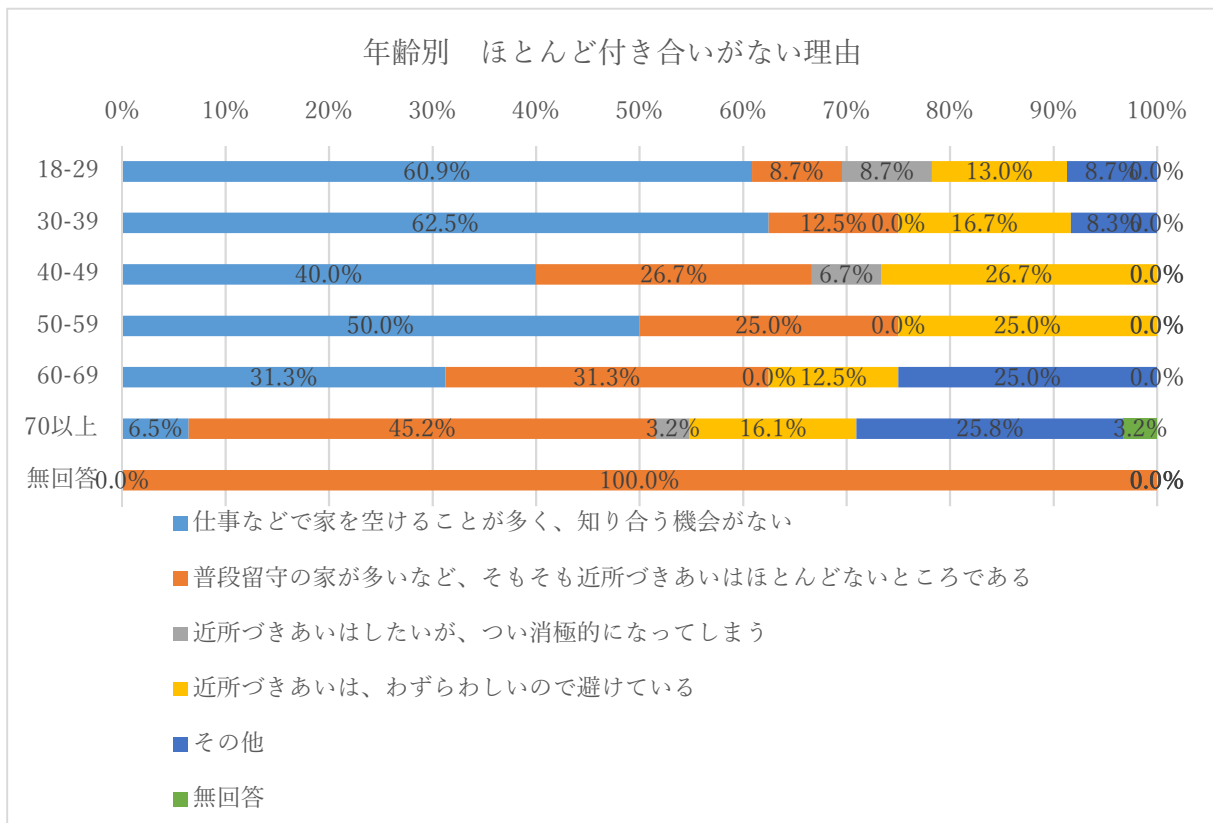


○ 子育て世代の30代、40代が「仲がよく、家族同様の付き合い」の回答が少ない。また、年齢が若い人ほど「ほとんど付き合いがない」と回答した人が多い。

(2) ほとんど付き合いがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

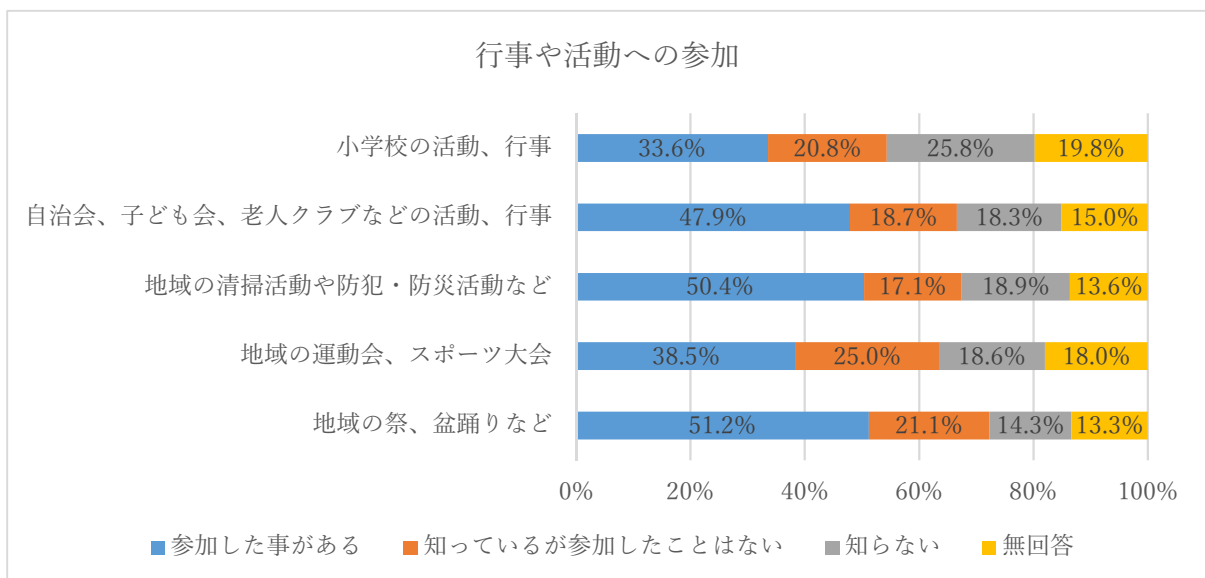


○ 「ほとんど付き合いがない」と回答した最も大きな理由は「仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない」で38.6%となっている。また、「普段留守の家が多いなど、そもそも近所づきあいはほとんどないところである」が26.3%となっており、近所づきあいをする時間がないことが大きいと言える。



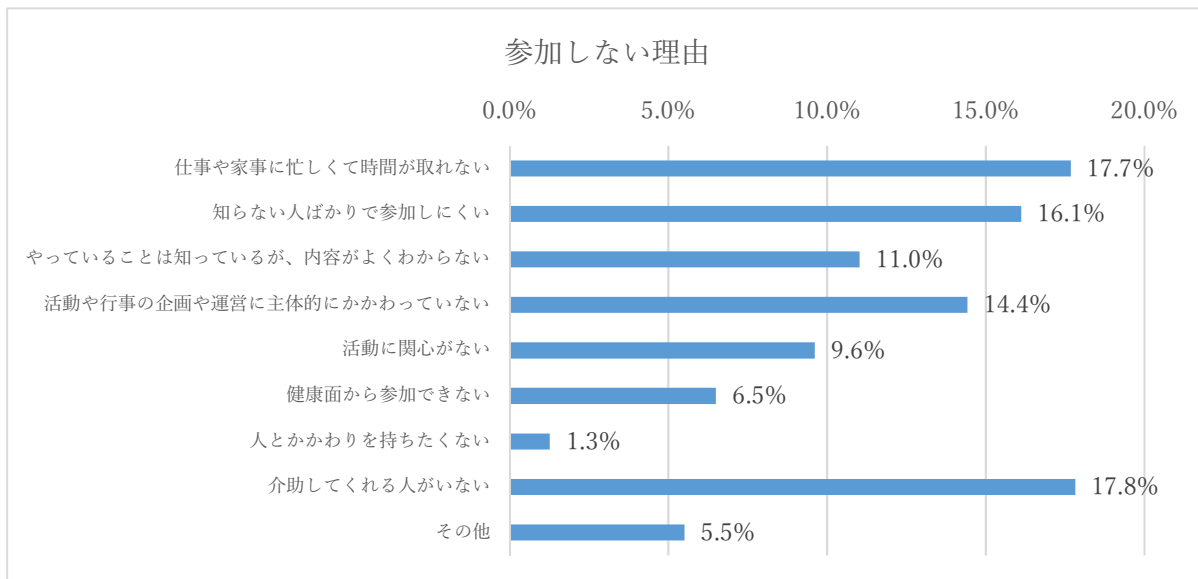
○ 30代までは、「仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない」とした回答が多く、40代、50代になると、「近所づきあいは、わずらわしいので避けている」が多くなってきている。

(3) あなたの地域で行われている活動や行事などに参加していますか。(いずれか1つに○)



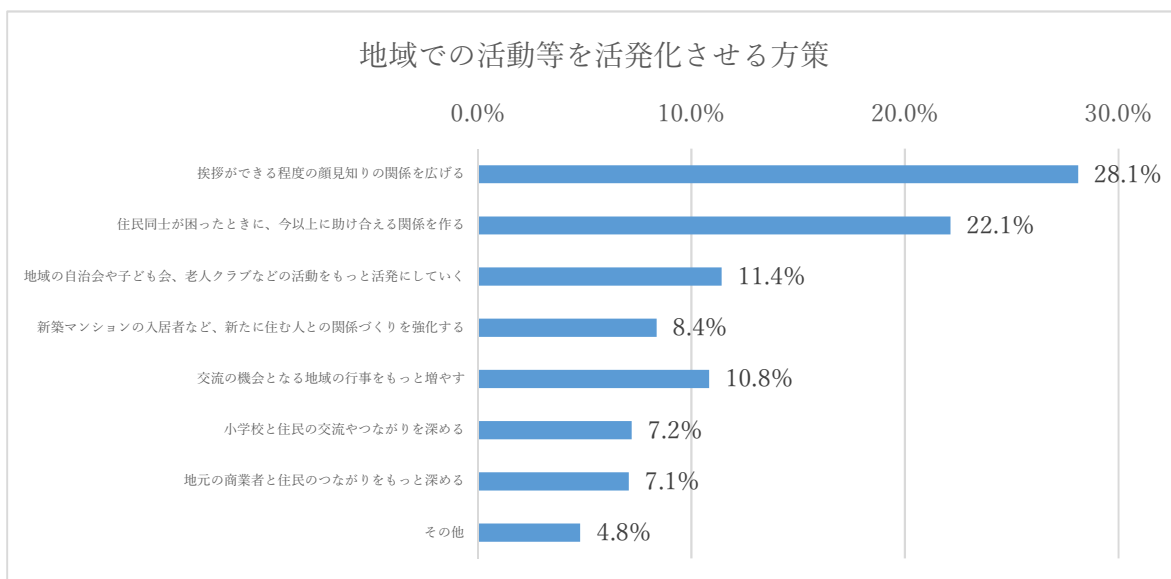
○ 地域の自治会活動や祭、清掃活動等には約半数が参加したことがあると回答しており、一定の地域活動が認知され、実際に活動が行われていることがうかがわれる。

(4) 参加しない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



- 参加しない理由の中では、「介助してくれる人がいない」が17.8%で最も多く、「仕事や家事に忙しくて時間が取れない」17.7%、「知らない人ばかりで参加しにくい」が16.1%となっている。

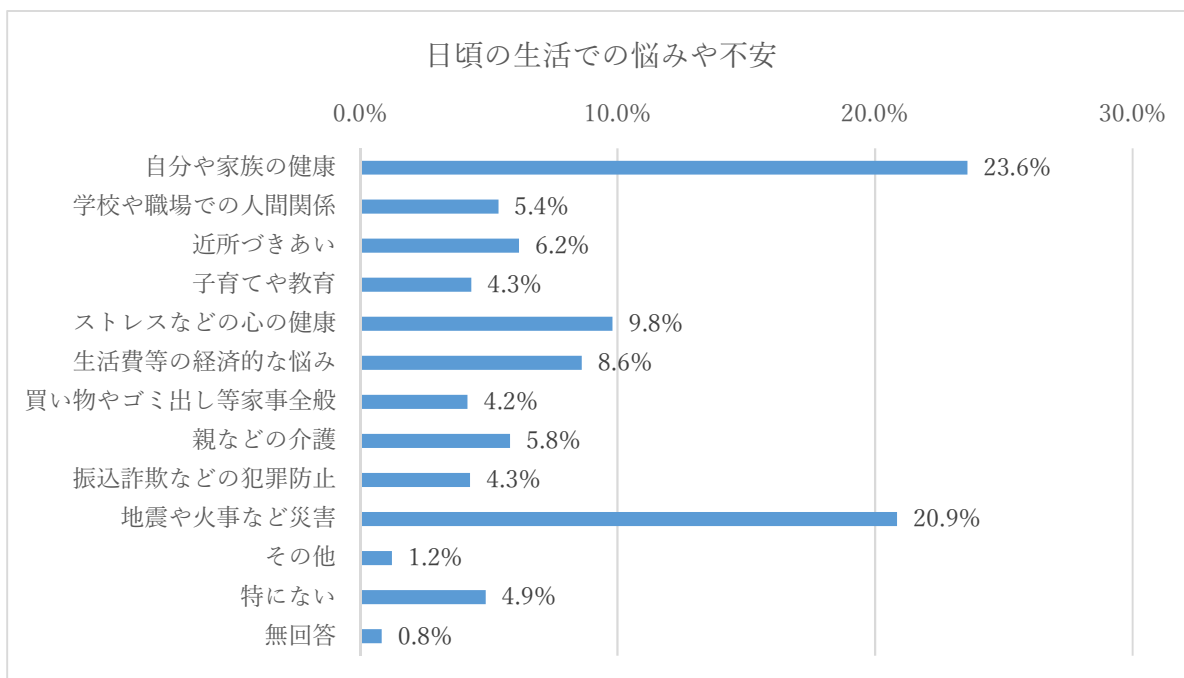
(5) 活動や行事が、地域でもっと活発に行われるようにしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか（あてはまるものすべてに○）



- 「挨拶ができる程度の顔見知りの関係を広げる」が28.1%で最も多く、「住民同士が困ったときに助け合える関係を作る」が22.1%となっている。今以上に横のつながりが必要と考えている人が多い。

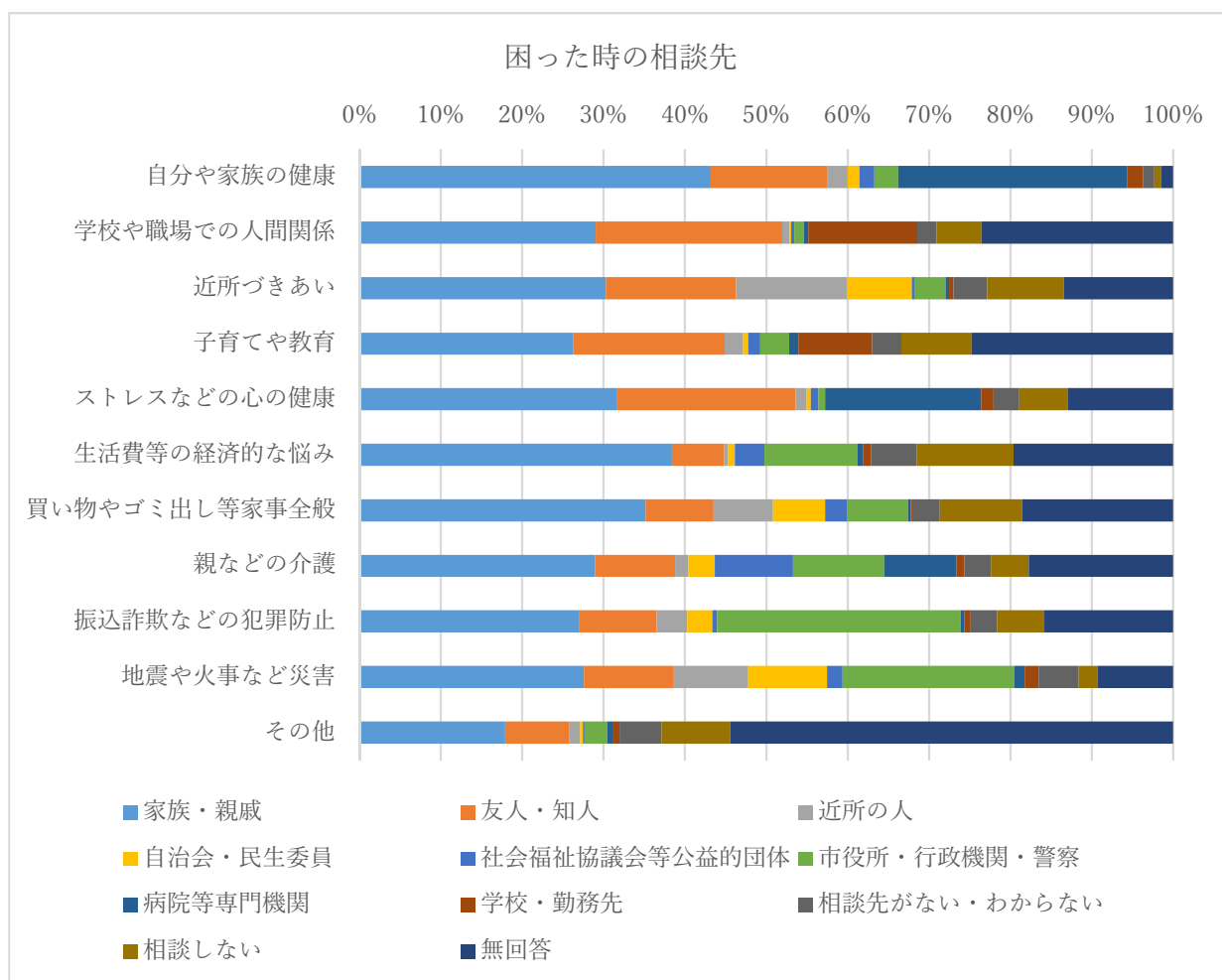
4 地域での助け合いについて

(1) あなたは日ごろの生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか（あてはまるものすべてに○）



- 「自分や家族の健康」が23.6%、「地震や火事などの災害」が20.9%と多い。
- 近年、自然災害が頻発している状況から、災害に対する関心が高まっている。

(2) 現在もしくは今後、日ごろの生活で困ったときや悩んだ時に、どこへ相談したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

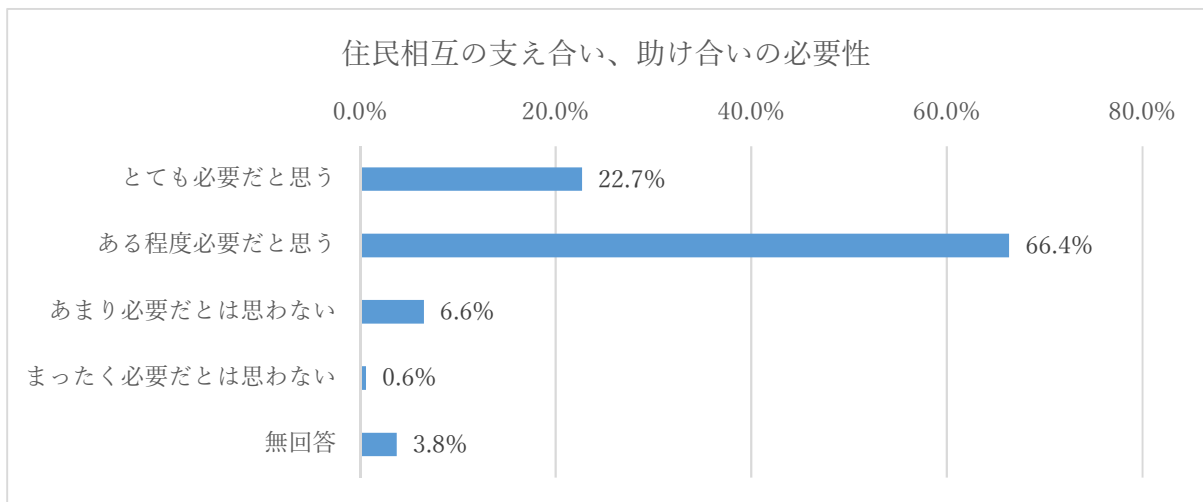


	家族・親戚	友人・知人	近所の人	自治会等	社協等	市役所等
自分や家族の健康	43.2%	14.4%	2.5%	1.4%	1.9%	2.9%
学校や職場での人間関係	29.1%	22.9%	0.9%	0.2%	0.4%	1.2%
近所付き合い	30.3%	16.0%	13.6%	8.1%	0.4%	3.8%
子育てや教育	26.3%	18.6%	2.3%	0.6%	1.5%	3.6%
ストレスなどの心の健康	31.7%	21.9%	1.4%	0.5%	0.9%	0.8%
生活費等の経済的な悩み	38.4%	6.4%	0.5%	0.8%	3.7%	11.4%
買い物やゴミ出し等家事全般	35.2%	8.4%	7.3%	6.4%	2.7%	7.5%
親などの介護	29.0%	9.8%	1.6%	3.3%	9.6%	11.2%
振込詐欺などの犯罪防止	27.0%	9.6%	3.8%	3.1%	0.6%	29.9%
地震や家事などの災害	27.6%	11.0%	9.2%	9.7%	1.9%	21.1%
その他	17.9%	7.8%	1.4%	0.3%	0.2%	2.8%

	病院等	学校等	相談先	相談しない	無回答
自分や家族の健康	28.1%	2.0%	1.3%	0.8%	1.5%
学校や職場での人間関係	0.5%	13.4%	2.4%	5.5%	23.6%
近所付き合い	0.4%	0.5%	4.1%	9.4%	13.4%

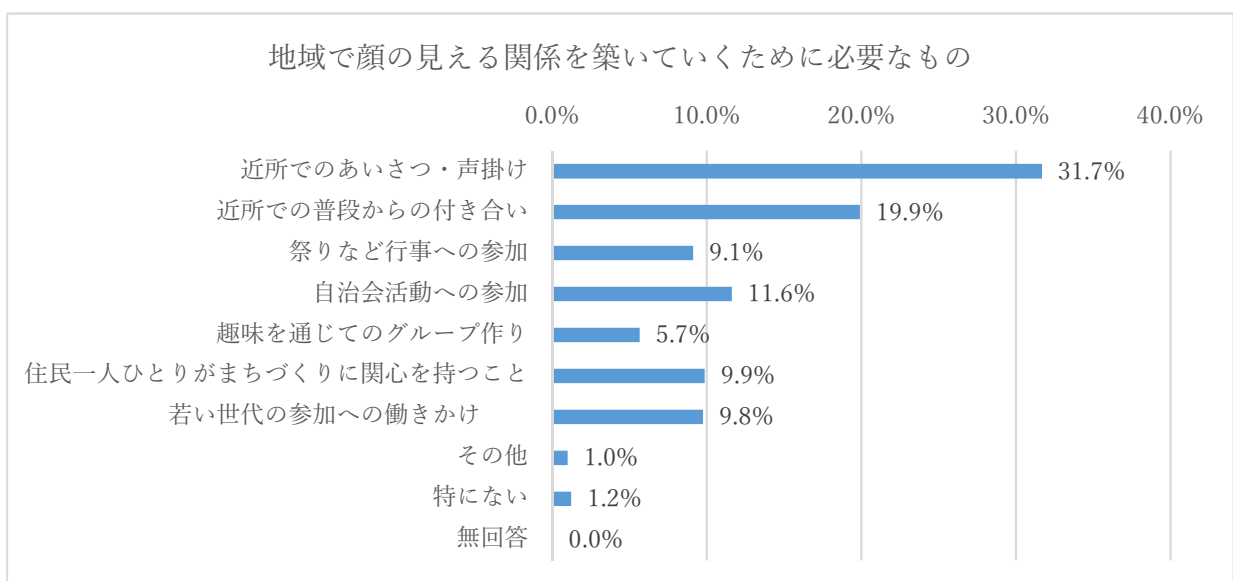
子育てや教育	1.1%	9.1%	3.6%	8.6%	24.8%
ストレスなどの心の健康	19.2%	1.5%	3.1%	5.9%	13.0%
生活費等の経済的な悩み	0.7%	1.0%	5.6%	11.9%	19.6%
買い物やゴミ出し等家事全般	0.3%	0.2%	3.4%	10.1%	18.6%
親などの介護	8.9%	0.9%	3.3%	4.6%	17.7%
振込詐欺などの犯罪防止	0.4%	0.7%	3.3%	5.8%	15.8%
地震や家事などの災害	1.2%	1.7%	4.9%	2.3%	9.3%
その他	0.6%	0.9%	5.2%	8.5%	54.4%

(3) あなたは、地域の福祉課題に対し、住民相互の自主的な支えあい、助け合いの必要性についてどう思いますか（いずれか1つに○）



○ 「とても必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」が合計 89.1%で、市民の多くが相互の助け合いは必要と考えている。

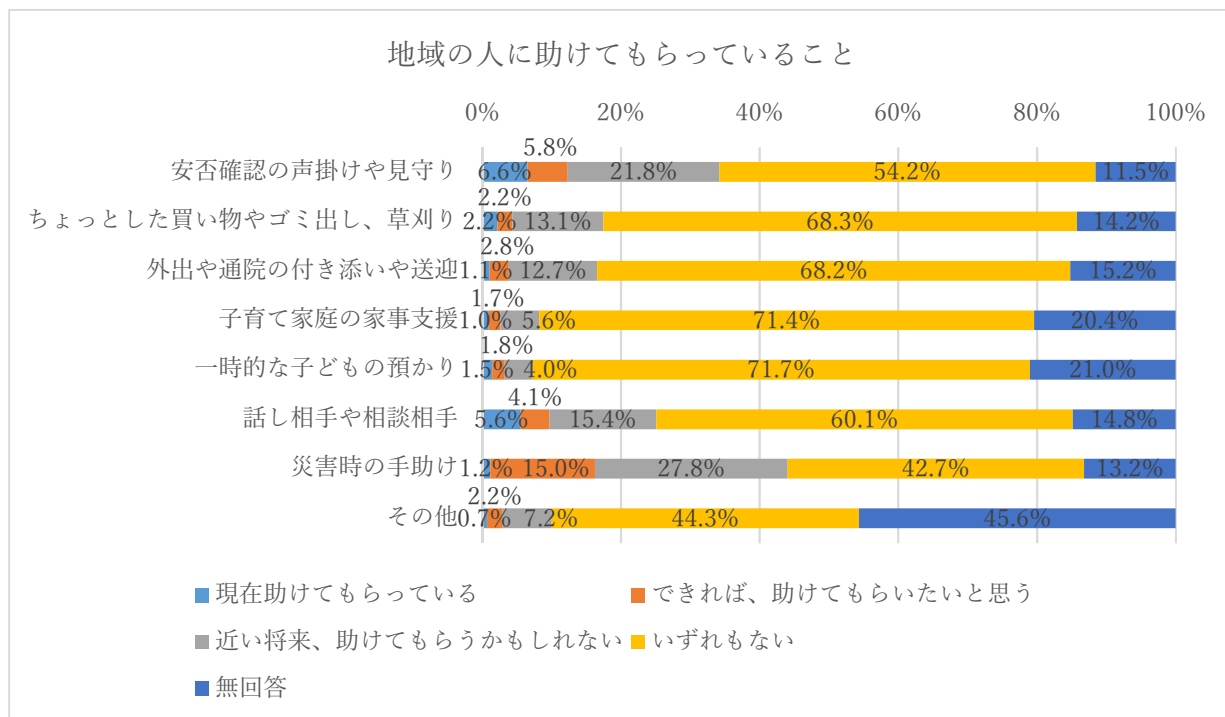
(4) 地域で顔の見える関係を築いていくためには何が必要とご思いますか。（あてはまるものすべてに○）



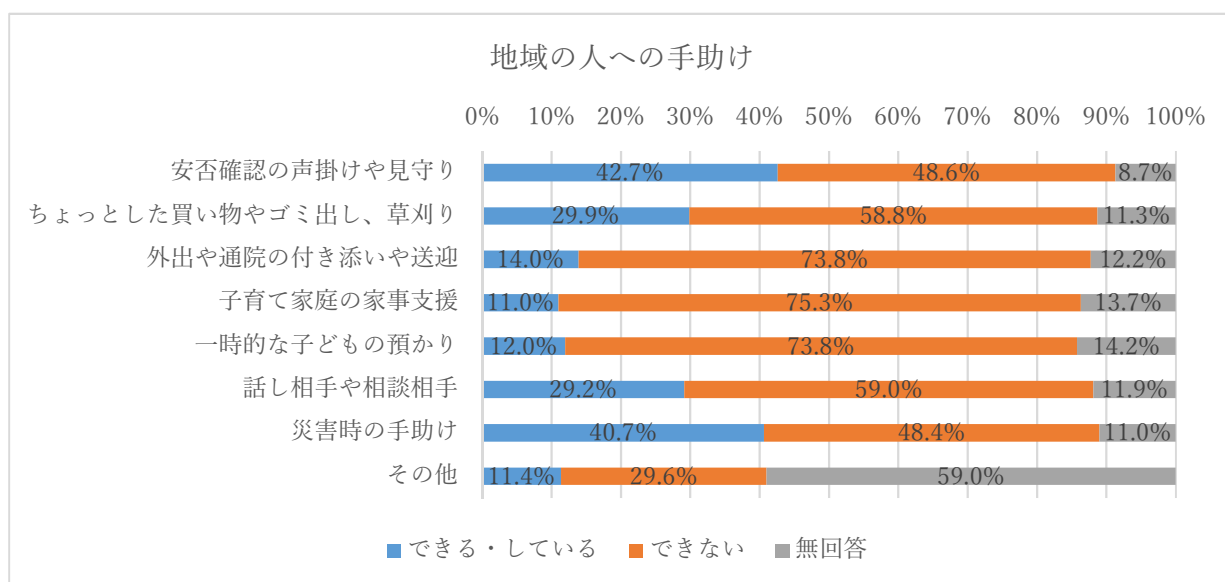
○ 「近所でのあいさつ・声掛け」が 31.7%、「近所での普段からの付き合い」が 19.9%で、

普段からの継続的な付き合いが大事と考えている人が多い。

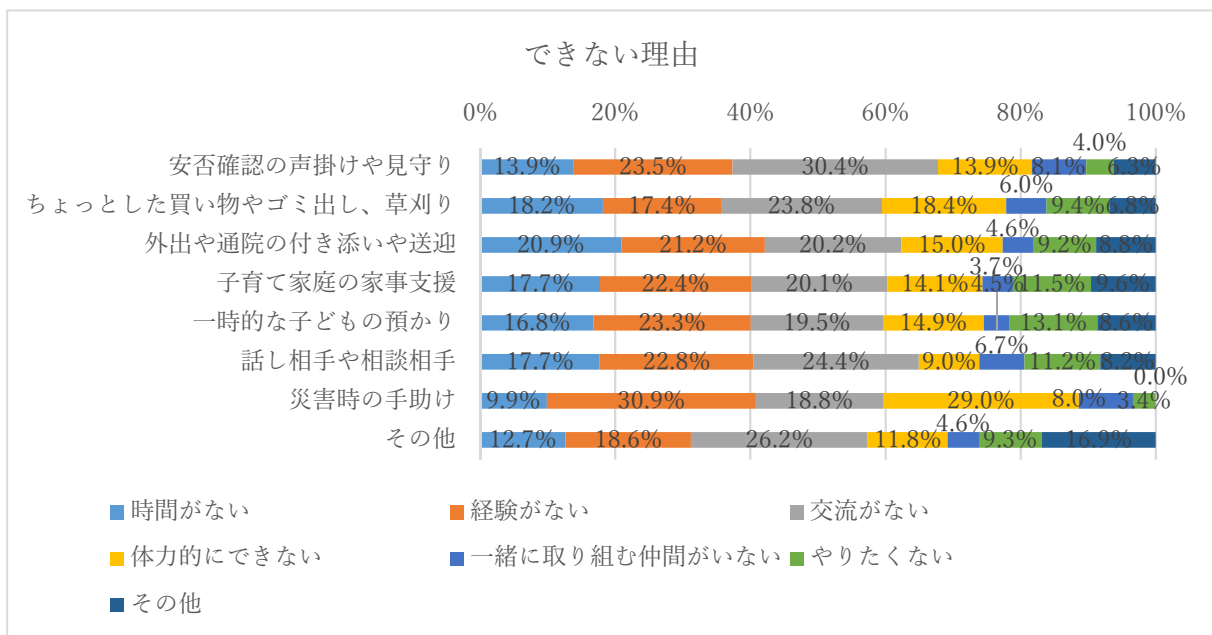
(5) 日頃の生活で、地域の人に助けられていることがありますか。(いずれか1つに○)



(6) 地域の人困っていた場合、手助けができると思いますか。できない場合、その理由は何ですか(あてはまるものすべてに○)

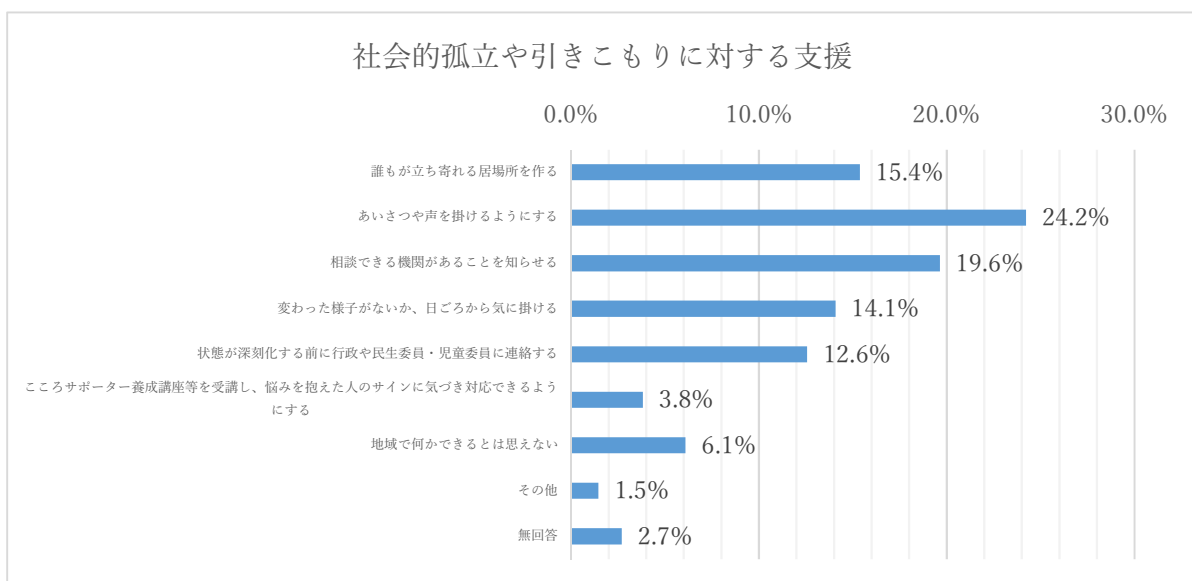


- 「安否確認の声掛けや見守り」、「災害時の手助け」の「できる・している」の数値が高く、非常時には手伝えることができるとした市民が多い。
- 半面、買い物や話し相手など、日常的なものについては、できないと回答した市民が多い。



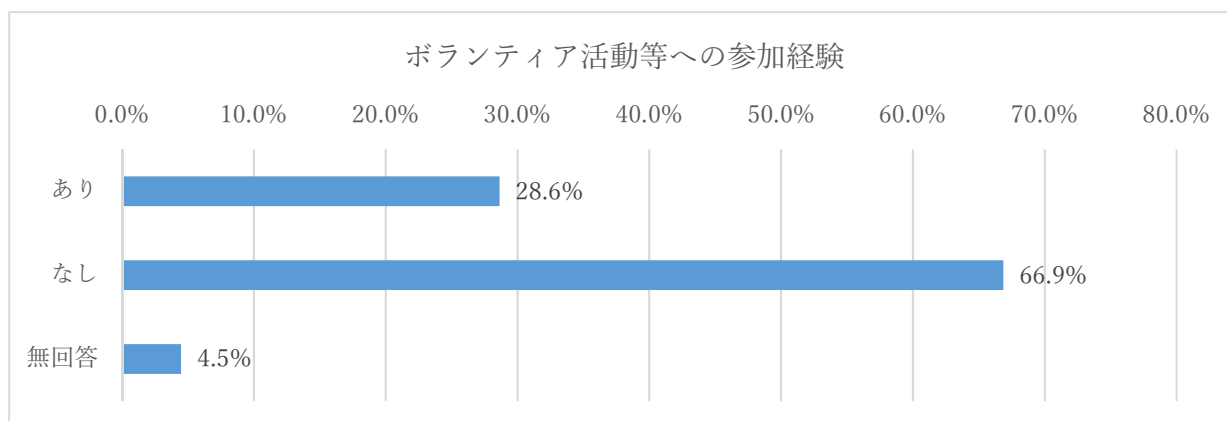
○ 手助けができない理由として、「経験がない」、「交流がない」の数値が高い。今後、研修の開催や交流の場づくり等、環境を整備していく必要があると考えられる。

(7) 社会的孤立やひきこもりが社会問題となっていますが、地域としてこれらの問題に対して、どのようなことができると思いますか（あてはまるものすべてに○）



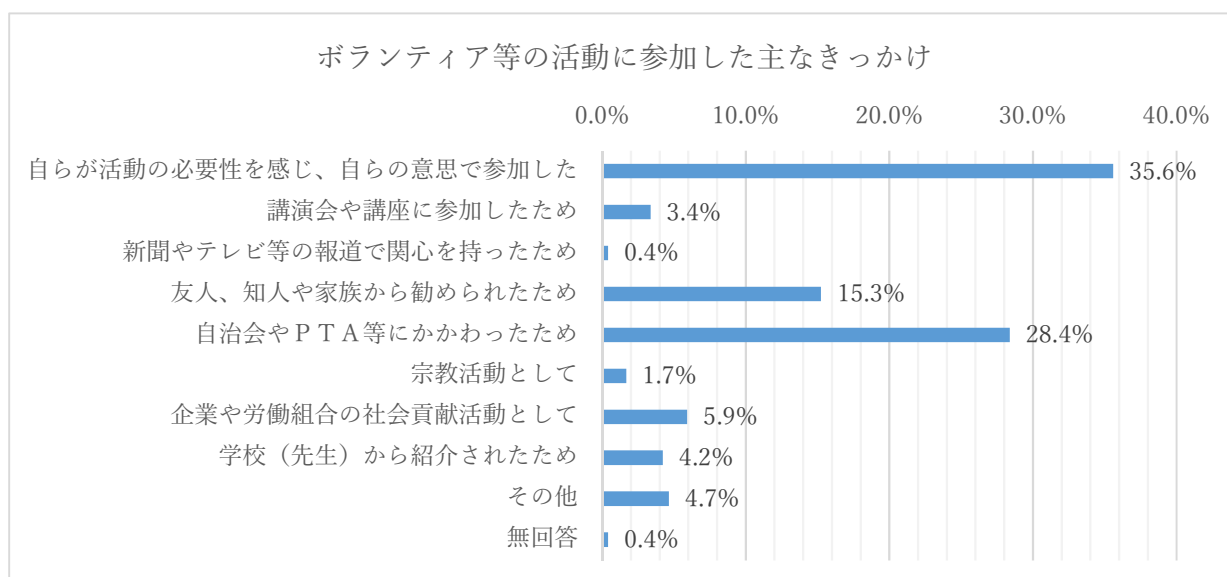
○ 「あいさつや声を掛けるようにする」が24.2%、「相談できる機関があることを知らせる」が19.6%で、直接当事者に声掛けするものが多い。一方で「地域でできるとは思えない」が6.1%となっている。

(8) あなたは、ボランティア、NPO活動への参加経験がありますか。(いずれか1つに○)



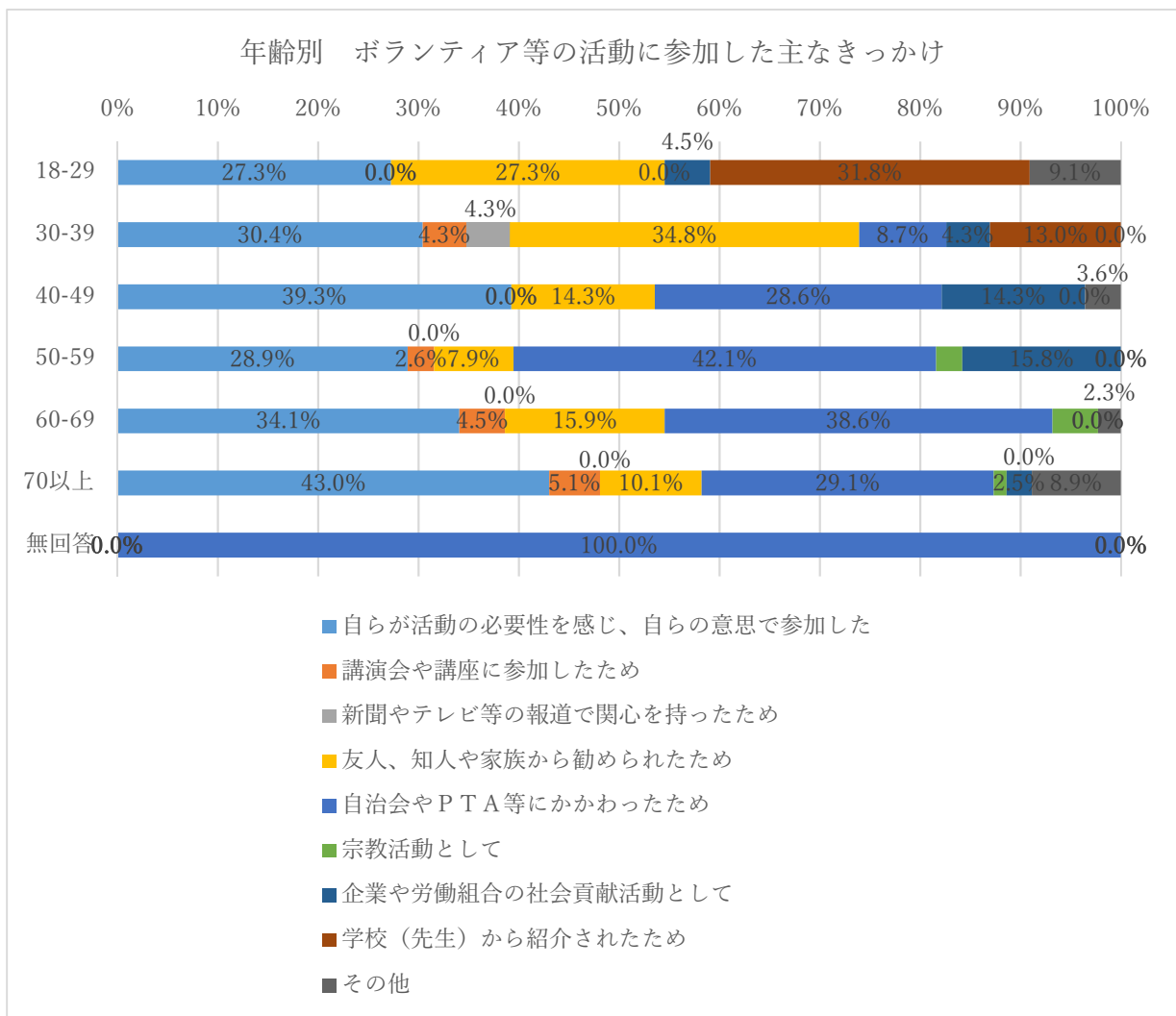
○ 「あり」が28.6%、「なし」が66.9%となっている。

(9) 参加した主なきっかけは何ですか (いずれか1つに○)



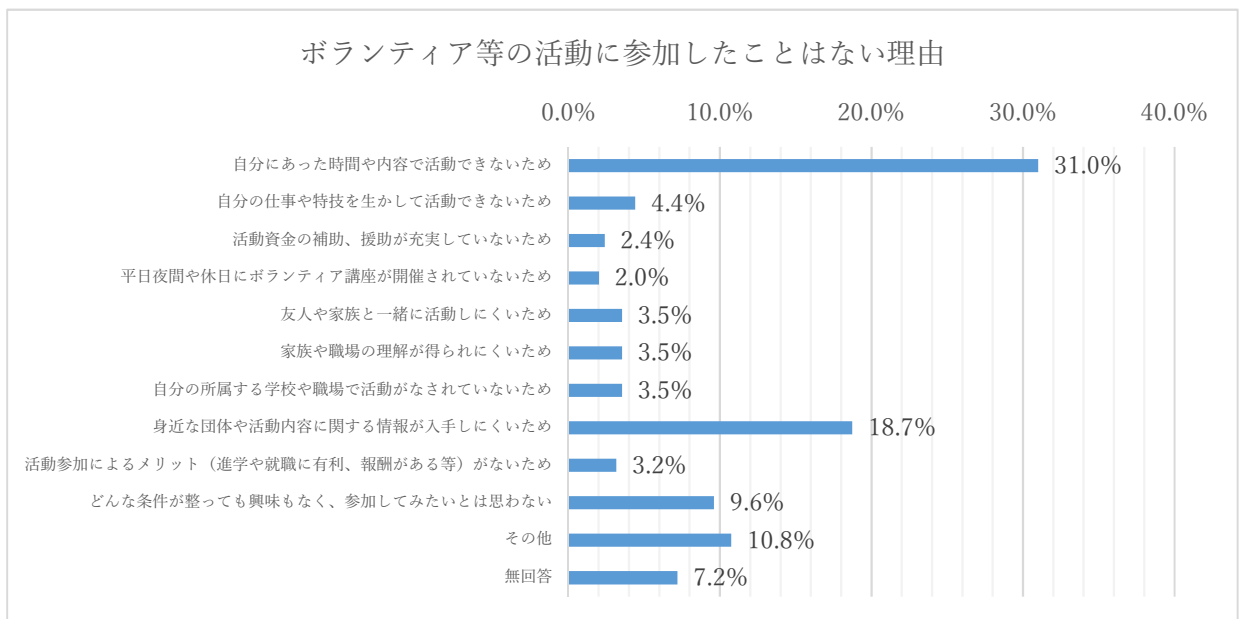
○ 活動に参加した主なきっかけとしては、「自らが活動の必要性を感じ、自らの意思で参加した」が35.6%で積極的に活動を行っている人が多い。

○ また、「友人・知人や家族から勧められたため」が15.3%で、周囲からの勧めで参加した人が多い。



○ 年代別にみると、30代以下が、「学校（先生）から紹介されたため」と回答しており、阪神・淡路大震災以降、ボランティアの重要性が高まり、教育現場での意識啓発が進んでいることがうかがえる。

(10) 参加したことはない主な理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

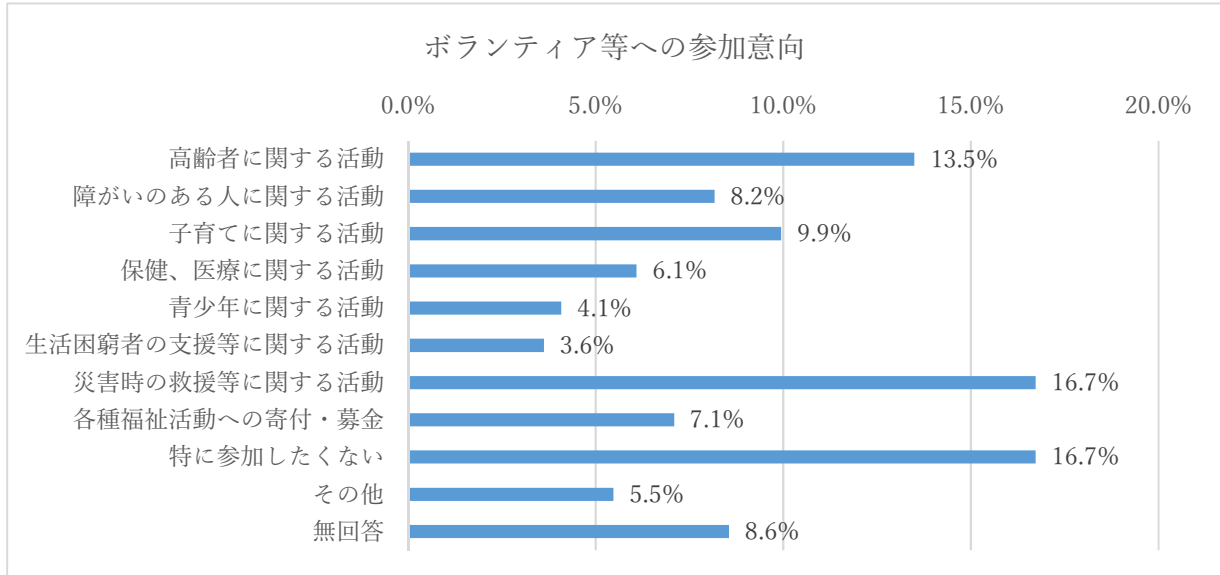


○ 「自分にあった時間や内容で活動できない」の31.0%が最多であるが、「身近な団体や活

動内容に関する情報が入手しにくい」が 18.7%となっており、情報発信の方法に課題があると言える。

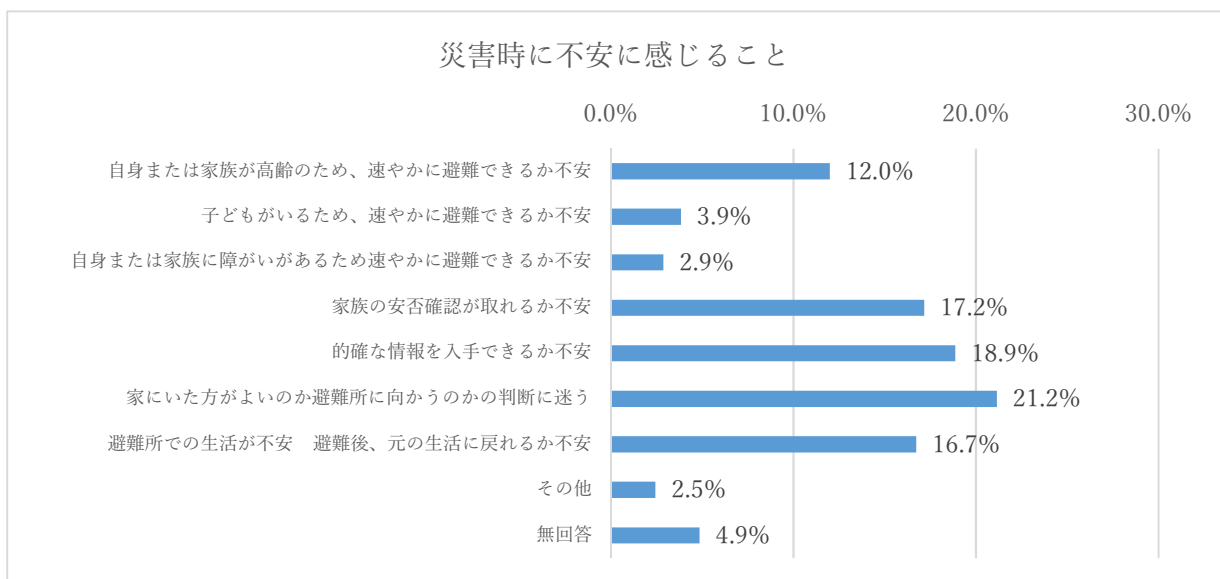
- 一方で「どんな条件が整っても興味もなく、参加してみたいとは思わない」が 9.6%となっている。

(11) 今後どのようなボランティア、NPO活動、社会貢献活動に参加していきたいですか（あてはまるものすべてに○）



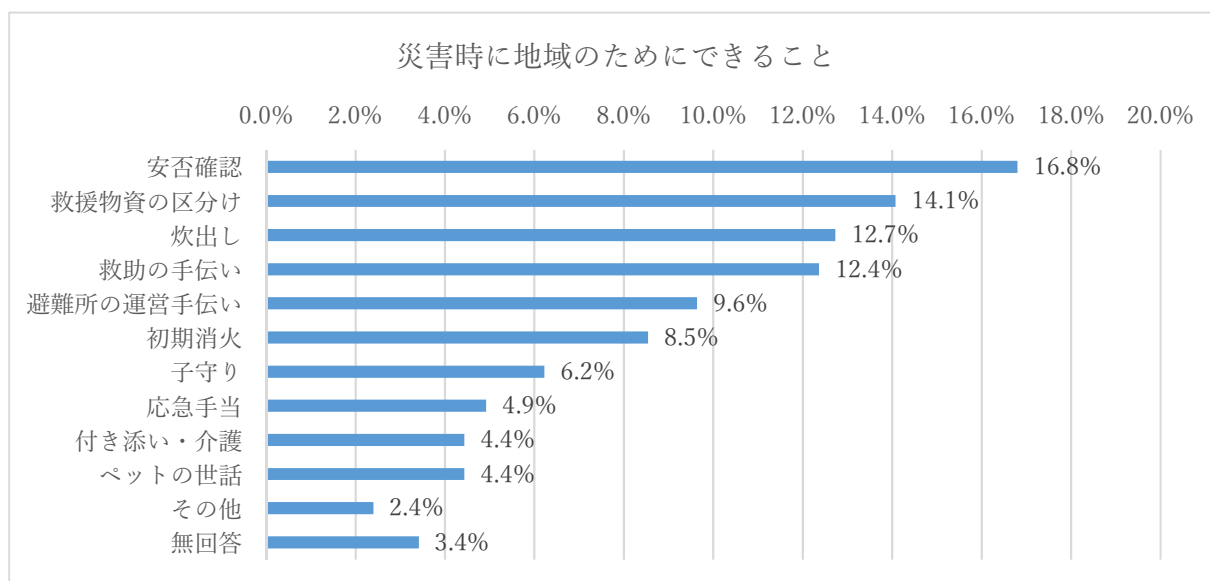
- 「災害時の救援等に関する活動」が 16.7%で、近年頻発する災害に関しては意識が高くなっている。次いで、「高齢者に関する活動」が 13.5%、「子育てに関する活動」が 9.9%となっており、身近なものが多い。
- 一方で、「特に参加したくない」が 16.7%で高い数値を示している。

(12) 災害時に不安に感じることは何ですか（あてはまるものすべてに○）



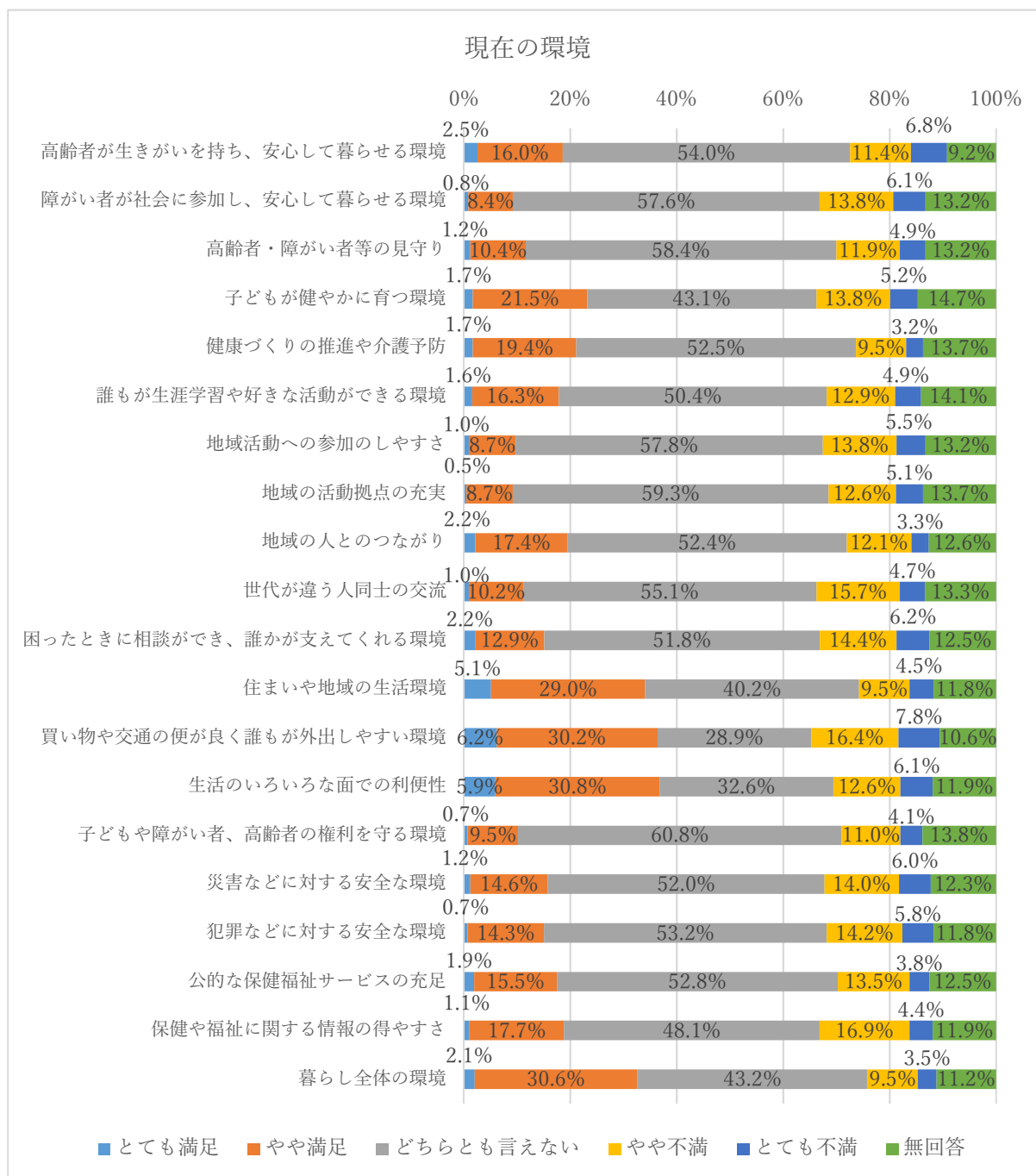
- 「家にいた方がよいのか避難所に向かうのかの判断に迷う」が 21.2%、「的確な情報を入手できるか不安」が 18.8%で、的重要・適切な情報取得を求めている。
- また、「避難所の生活が不安、避難後、元の生活に戻れるか不安」が 16.7%となっている。

(13) 災害時に地域のためにできることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



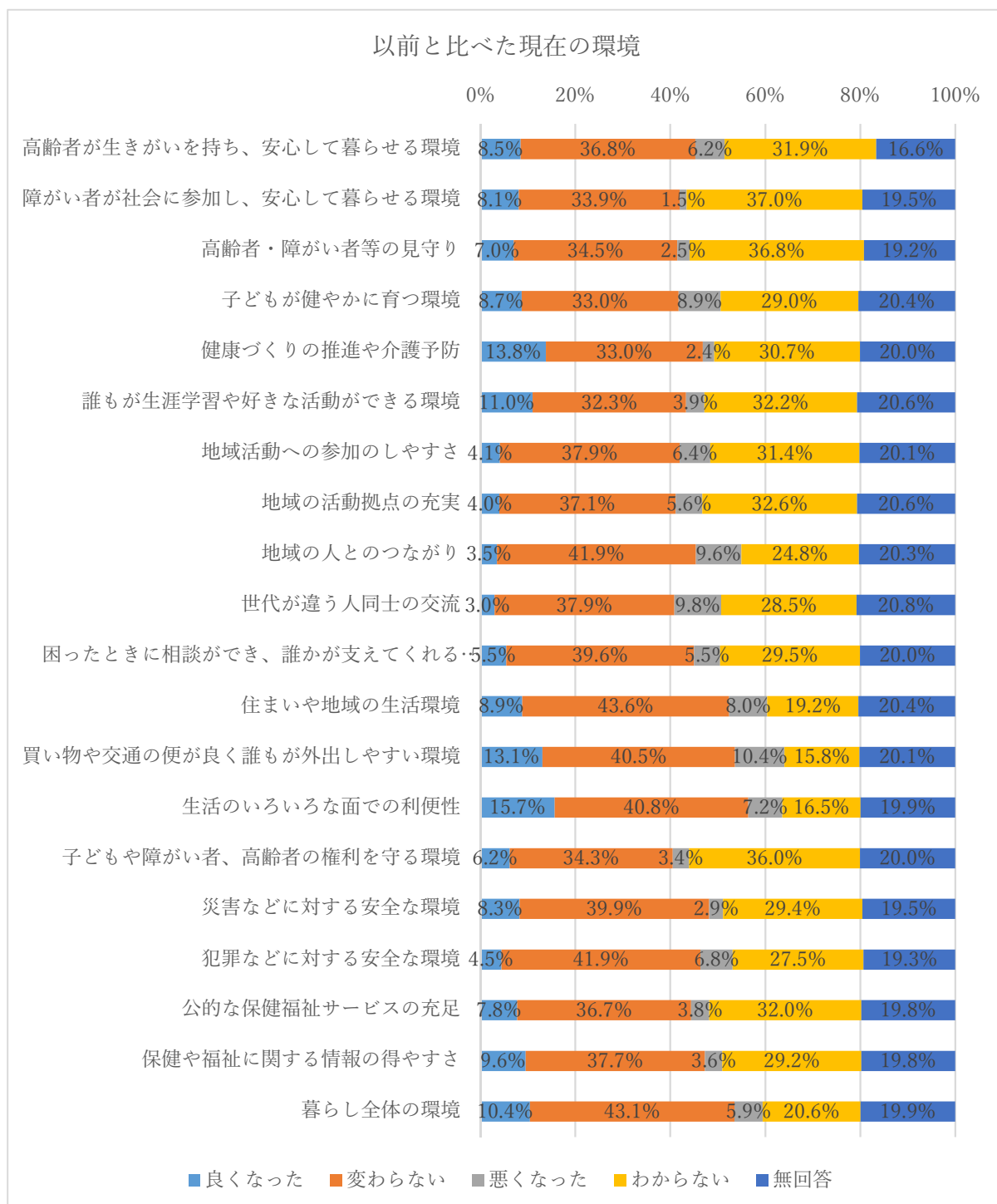
- 「安否確認」が16.8%、「救援物資の区分け」が14.1%、「炊出し」12.7%、救助の手伝いが12.4%となっており、何らかの形で協力していく人が一定数いる。このため、日ごろの顔見知りの関係づくりが重要であると思われる。

(14) 現在の環境についてどのように感じていますか。(いずれか1つに○) (現在の状況)



- 「とても満足」、「やや満足」が高かったのは、「生活面での利便性の満足度」36.8%、「買い物や交通の便が良く外出しやすい環境」36.4%、「住まいや地域の生活環境」34.1%の順となっている。
- 一方、「とても不満」、「やや不満」が高かったのは、「買い物や交通の便が良く外出しやすい環境」24.2%、「保健や福祉に関する情報の得やすさ」21.2%、「困ったときに相談ができ、誰かが支えてくれる環境」20.6%の順となっており、それぞれの不満の解消に向け取り組んでいく必要がある。また、買い物や交通の便については、満足、不満の両方で高い数値を示しており二極化が進んでいる。

(15) 現在の環境についてどのように感じていますか。(いずれか1つに○)(以前と比べた状況)



- 「よくなった」が高かったのは、「生活のいろいろな面での利便性」15.7%、「健康づくりの推進や介護予防」13.8%、「買い物や交通の便が良く外出しやすい環境」13.1%の順となっている。
- 一方、「悪くなった」が高かったのは、「買い物や交通の便が良く外出しやすい環境」10.4%、「世代が違う人同士の交流」9.8%、「地域の人とのつながり」9.6%の順となっている。新型コロナウイルス感染症の拡大時期が重なったことによる人と人との接触機会の減少の影響が考えられる。
- ほとんどの項目で「変わらない」が最多となっている。